

講義科目名（コース名）	専門演習（専門演習Ⅰ～Ⅱ）
名前	山本 未来

Moodle を専門演習で利用して 2 年目になりますが、現在では Moodle のない専門演習は考えられないほど、重要な役割を果たしています。

今回は、Moodle があってよかったと特に強く感じたディベートでの出来事を紹介したいと思います。ディベートというのは通常の討論とは異なり、種々の厳格なルールの下に実施されるもので、参加者はテーマに沿って多くの時間をかけて準備をします。また、審判をする者も、議論を聞きながら詳細な記録をとり、協議を重ねて判定を行わなければなりません。

ディベートには学生も積極的に参加してくれるため教育効果も高いことから、専門演習でも年に 1 度は実施したいものです。その一方で、90 分という限られた授業時間の中で、ディベート、審判の協議及び講評を行うことは難しく、毎回はらはらしてしまうのが実情です。

春学期に実施したディベートは、3 年生が肯定、否定側に分かれ、4 年生が審判を行うというものでした。肯定側、否定側の立論や反駁は予め時間が決められているため、ディベート自体は 40 分ほどで終わりました。しかしながら、テーマが難しかったこともあり、審判の協議

が難航したため、授業時間内に講評まで終えることができませんでした。

次の週の授業時間に審判に講評をしてもらうことも考えましたが、1 週間後には参加者自身もディベートの内容を忘れてしまう恐れもありますし、また睡眠時間を削ってディベートの準備をした者もあり、できるだけ早く結果を知らせてあげたいと思いました。

そこで、専門演習の授業終了後、審判をした 4 年生には引き続き協議を続けてもらい、完成した講評を Moodle にアップしてもらうことになりました。

そして、3 時間後に、A4 サイズで 4 枚になる講評が Moodle にアップされました。授業時間内には終わらなかったものの、Moodle のおかげで、ディベートの内容を忘れないうちに参加者に講評を見てもらうことができました。また、アップされたものに対して Moodle 上でコメントを付すこともできますので、講評を読んだ 3 年生がどのように結果を受け取ったのかについてもコメントを通して知ることができました。

このように、Moodle は一度使い始めれば、限られた授業時間内ではできないことを補完してくれたり、授業を効率的に進めるために、欠かすことができないものにな

と思います。最初は面倒に思えることもあるかもしれませんが、多くの先生方に活用していただけることを願っています。

